

編集者が関係する方々を訪ね、「海中転落」、「巻き込まれ等」の現状、安全対策などについてお話を伺いました。

ご協力いただいた方々：漁業者、漁業協同組合・漁業協同組合連合会・地方自治体・救命胴衣メーカー・漁ろう機器メーカー・救難機器メーカーの各担当者

### ★救命胴衣

- ・地域、季節、漁種・漁法による作業の違いなど、様々な条件によって選定すべき救命胴衣が決まると思います。
- ・着用意識の高い地域では、船主が着用を雇い入れの条件にしたり、着用しないことが繰り返された者を数日間の操業停止とするなどの自主ルールを決めている団体もあります。
- ・船の上で作業するとき動きづらいと言って、いくら注意しても着ない者もいます。
- ・関係機関の取組みや女性ライフジャケット着用推進員（ライフガードレディース:LGL）の活動などで、漁業者の着用への意識は上がっていると思います。
- ・身近なところで事故が起きたら買ったり着けたりするけれど、続けて着けるようになるのは、なかなか難しいところもあります。
- ・常時着用のためには、ある程度のペナルティが必要かもしれません。



### ★漁ろう機器

- ・安全対策より作業性を求める方が多いように思います。
- ・誤って巻き込まれることがあるので、網揚げ作業を行う者とは別の者が揚網機のリモコンを操作するように配慮しています。
- ・ちょっとしたことで巻き込まれてしまうので、ボタンのついた服は着ない、長袖の袖口は切るといった工夫をしています。

### ★他にもこんな意見が

- ・船の上で作業するとき、携帯電話は所持せずに操舵室やサロンに置いていることが多い。
- ・1人乗りの漁船の事故が多いのであれば、複数人で乗り合って出漁してはどうか。

このたびはお忙しいところ、取材にご協力いただきありがとうございました。

お話を伺う中で、関係する方々の願いは「安全操業」だと改めて感じました。

携帯電話の防水ケース、漁業種類に合わせた救命胴衣、浮力のある合羽、海中転落時に位置情報がメール送信される装置、縄梯子の設置などを上手に利用していただければと思います。

事故報告書の中には、いつもは救命胴衣を着用しているのに、発見時には脱げていたケースがありました。ベルトを締めて身体に密着させる、股下のひもを通すなど身体から抜けないように着用をしていただき、事故で亡くなる方、ケガをされる方がなくなることを切に願っています。



海中転落時に位置情報がメール送信される装置の一例